

# あなたの 空き家 活かせませんか？



Vol.7

空き家活用通信

## 空き家から広がる 新たなつながり

民間の賃貸住宅が少ない大山町。町営住宅にも限りがあり、町外から新たに人が移り住みたいという場合に「空き家」は住宅の選択肢として重要な役割を占めています。現在も大山町に住むことを希望し、空き家を探している方も多くおられます。

所有者が、いざ空き家を活用しようと思っても、管理が不十分で家の荒廃が進んでしまっていると、いくら物件の価格を安くしても、修繕に膨大な費用がかかることが予想され、買い手、借り手を見つけていることがより困難になってしまいます。



### 空き家バンク 活用者インタビュー

絵かき 朝倉 弘平さん

空き家に人が「入る」ことは、住むために管理や修繕が行われるだけでなく、そこに住み始めた人と地域との新たなつながりにより、これまでなかった活動が始まることもあります。

独自の色彩感覚で描かれた自然の景色や、生き生きとした生き物たち。大山町在住のアーティスト、朝倉さんの作品を目にしたことがある方も多いのではないのでしょうか？

その朝倉さんも、空き家バンクを利用して大山町に移り住まれた方のひとりです。

宮城県出身の朝倉さんは、進学のため上京し、卒業後も東京を拠点に絵の仕事をしていましたが、お子さんが生まれるのを機に、妻しづりの静林さんの故郷である鳥取県に移住しました。

はじめは静林さんの仕事の関係で米子市に住んでいましたが、「せっかく鳥取に来たのだからもっと自然が身近にある方がいい」と大山町で暮らす家を空き家バンクで探し、現在住んでいる家に引っ